岐阜新聞真学塾

出題　螢雪ゼミナール　大垣駅前校・築樋拓真

問題【国語】

次の歌は７月８日に詠まれた和歌です。誰の気持ちを詠んだ和歌か答えましょう。

けふよりは　今来む年の　きのふをぞ
いつしかとのみ　待ちわたるべき

豆知識 雑学コラム　待ち遠しい？ 夏の行事

昨日、７月７日は七夕でした。皆さんは短冊に願いを書いて、笹に飾ったでしょうか。そもそも、七夕は、七を「たな」、夕を「ばた」と読むわけではなく、七夕で「たなばた」と読む特別な読み方です。なぜ、七夕を「たなばた」と読むのでしょうか。今日は七夕についてみていきましょう。

そもそも、七夕はいつごろ始まった行事なのでしょうか。その起源は古代の日本の７月に行われていた豊作を祈る祭りにあったと言われています。この祭りの中で神様に布をお供え物として捧げていました。この布を織るための道具を「棚機（たなばた）」と呼んでました。

一方、古代の中国では、７月７日の夕方に布をうまく織れるように祈願する祭りが行われていました。この祭りが日本に伝わり、前述の「棚機」と一緒になって、行われるようになりました。七夕の読み方は日本古来の「棚機（たなばた）」から、漢字は中国の祭りの行なわれていた時間の「七日の夕方」から取って「七夕（たなばた）」という言葉が生まれたという訳です。

七夕といえば、織姫と彦星が１年に一度、七夕の夜にだけ合うことができるというお話が有名ですよね。この話はもともと古代の中国の言い伝えで、先に書いた祭りと一緒に奈良時代までには、日本に伝わっていました。そして、多くの文学作品の中で織姫と彦星の話が引用されてきました。今回の問題の和歌は、古今和歌集に載っている和歌で、壬生忠岑が７月８日に詠んだ和歌として紹介されています。現代語訳すると「今日からは来年の昨日（７月７日）がいつくるのかだけを待ち続けるにちがいない」という意味で、もちろん、織姫と彦星の気持ちを詠んだ歌です。これ以外にも多くの和歌が詠まれていて、七夕が古代から日本の大切な行事であったことがよくわかります。

さて、短冊に願いを書く習慣は江戸時代に習い事の上達を願うものとして庶民にも普及しました。小さい子供にとって、短冊を書くことはきれいな字を書く目標になります。来年の七夕の短冊に上達した字で書けるように字の練習をしましょう。そうすると織姫や彦星のように七夕がいつ来るか待ち遠しくなりますね。

【解答】

織姫と彦星